

織田信長公居館跡は過去3回の発掘調査が行われ、平成19年度からは遺跡全体の構造や性格を解明するため第4次調査を開始し、昨年度までに巨石列、石垣、庭園、建物の礎石などが見つかりました。今年度は館の中心部分へと向かう通路と（C6トレンチ）と門と考えられる場所（C7トレンチ）の調査を行っています。

C6トレンチ

【主な遺構】直線通路、石垣の一部、石垣の裏込め石
 ※直線通路の規模 復元長 約35m、幅 約4.0m
 通路内の地面と上段の地表面との高低差 約2.7m
 【出土遺物】中国磁器・瀬戸美濃陶器・瓦・焼けた壁土、鉄釘、火縄銃の玉、金属製品
 ※瓦の中には金箔を貼ったものがあります。

過去の調査成果と合わせると、上段（C区）へと上がる南北方向の長さ約35mの直線通路の存在が確実になりました。通路は単純な階段ではなく、階段部分と平坦地部分（長さ約20m）とがあることもわかりました。通路は関ヶ原の合戦の前哨戦（1600年）後に埋め立てられ、その過程で掘られた穴の中とその周辺から焼けた壁土などの建築部材が見つかりました。

C7トレンチ

【主な遺構】礎石 はじきさら
 【出土遺物】焼けた瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・飾り瓦）、瀬戸美濃陶器、土師器皿
 ※飾り瓦には立体的な花をモチーフとしたものがあります。

建物の柱を据える礎石を確認しました。C7トレンチは高さの異なる平坦地の境に位置していることなどから、礎石は門か門に付属する建物のものであると考えられます。礎石の周辺では建物の屋根に葺いた瓦が出土しています。礎石と瓦は火災によって被熱し表面が赤や肌色に変色しています。火災は関ヶ原の合戦の前哨戦（1600年）のものと考えられます。

今回の発掘調査成果から考えられること

通路の埋め立て土の中から火災に遭った建物の廃材が見つかったことから、通路近くには建物が存在したことがわかりました。瓦が少量しか出土していないことから全面瓦葺きではなかったと思われませんが、金箔を貼った瓦の存在は豪華な建物であったことを伺わせます。

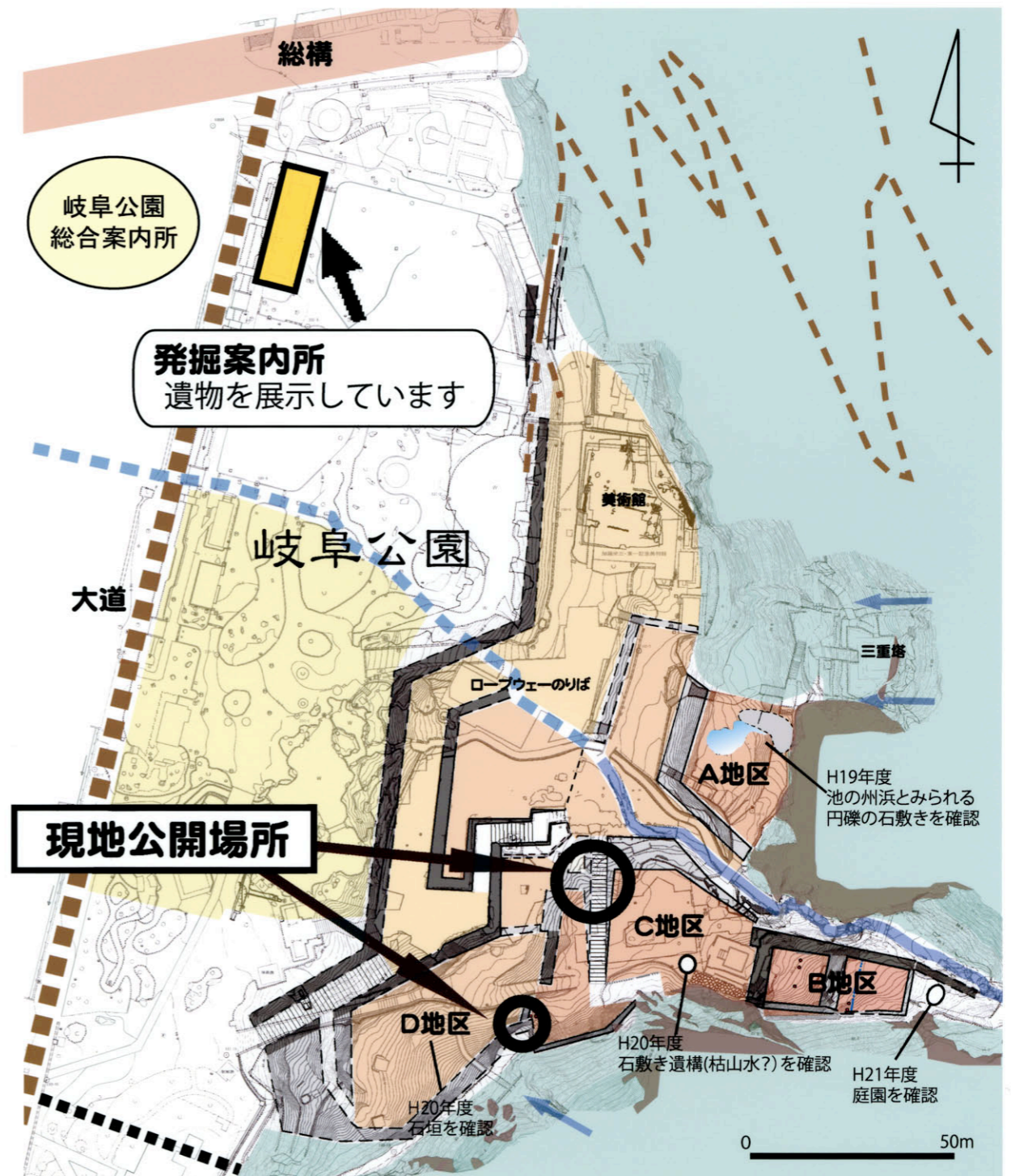
また、限られた面積の平坦地（C区）をわざわざ南北に長い通路で分断して土地を狭くしていることから、通路上部を覆うような建物があった可能性も考えられます。



問い合わせ先：岐阜市教育委員会 社会教育課 電話 058-265-4141(内線 6357)

織田信長公居館跡 発掘調査現地公開

平成22年11月27日(土)
午前10時～正午

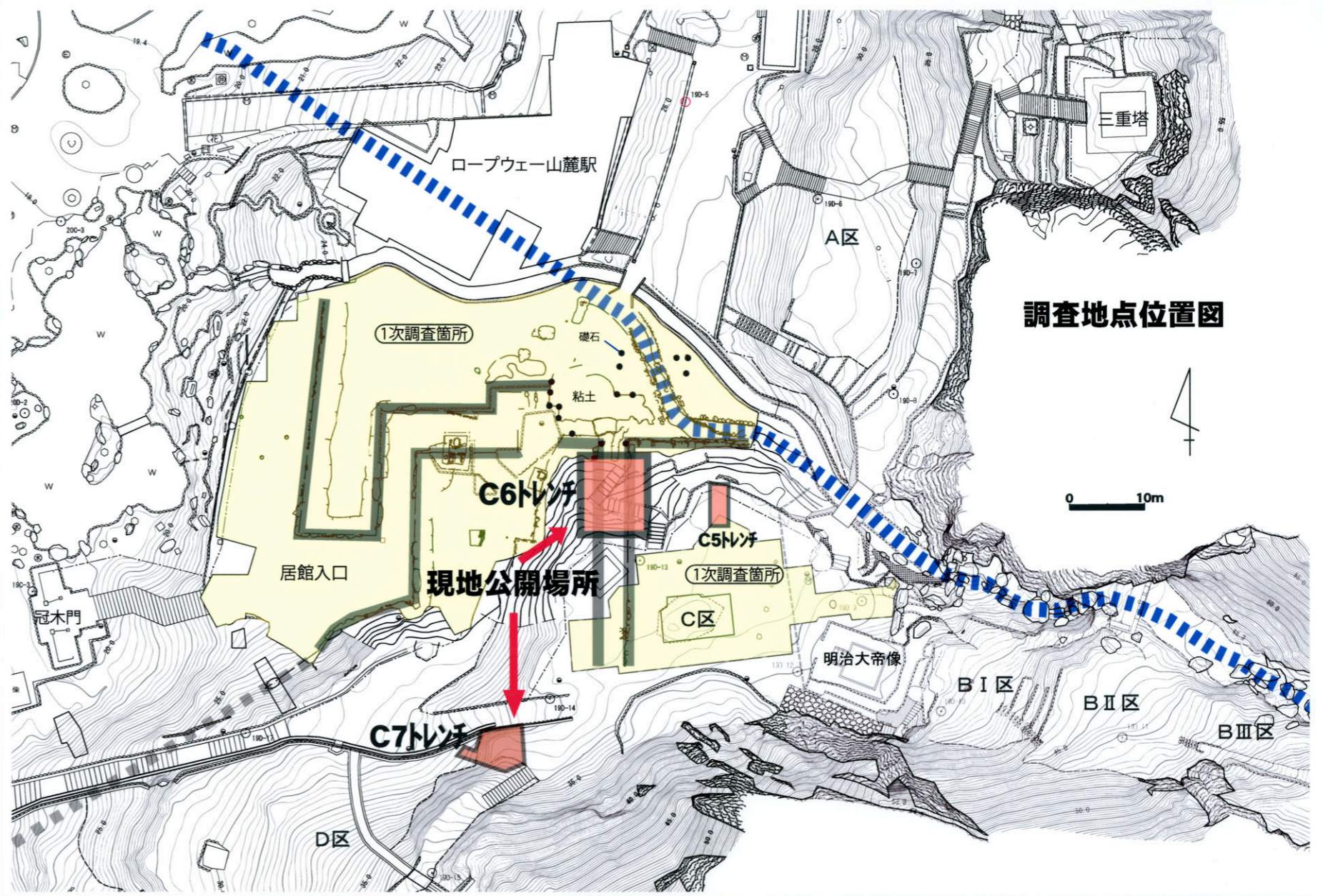
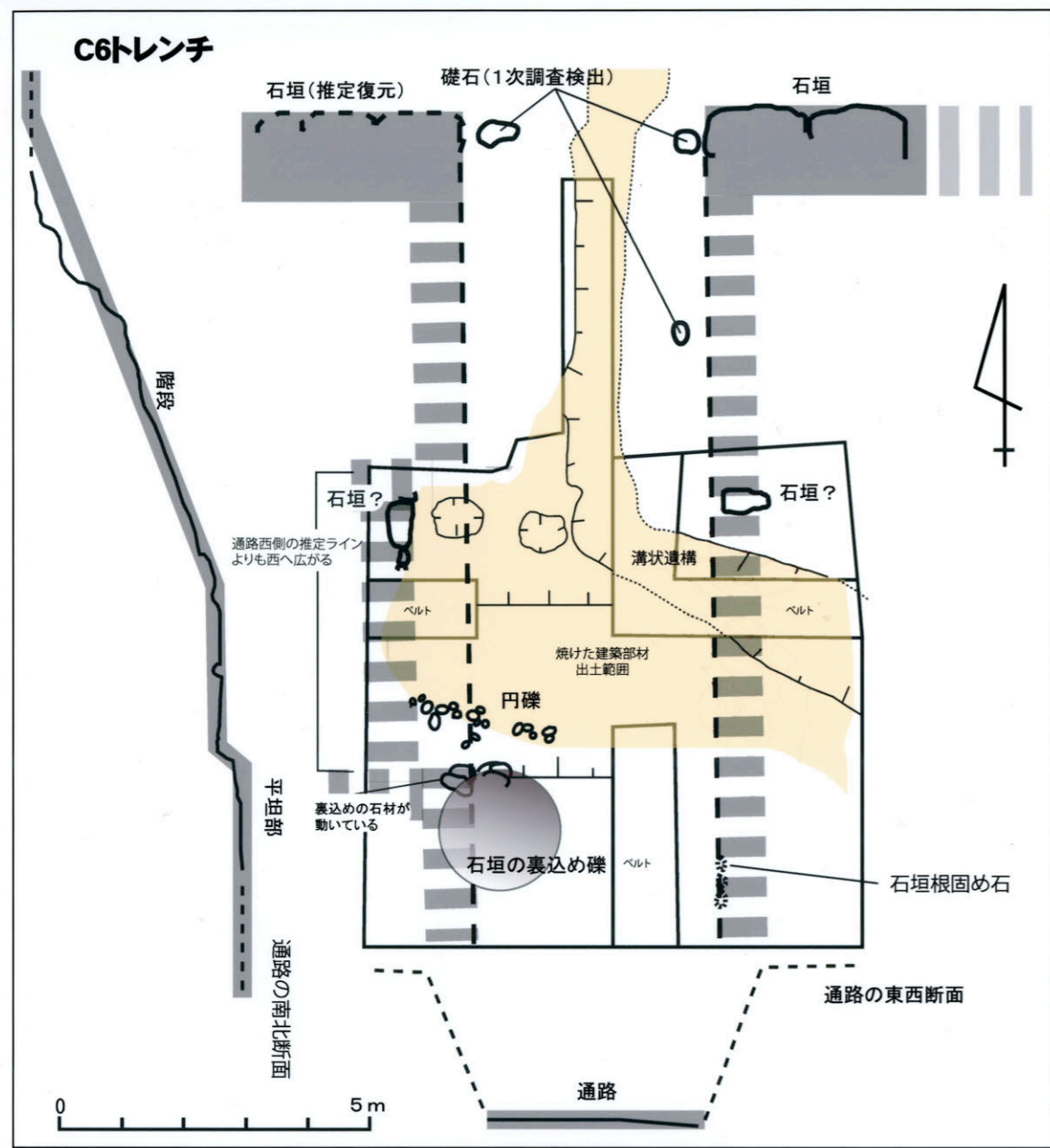


信長公居館 地形復元図

岐阜市教育委員会



(財) 岐阜市教育文化振興事業団



通路検出状況(北から)



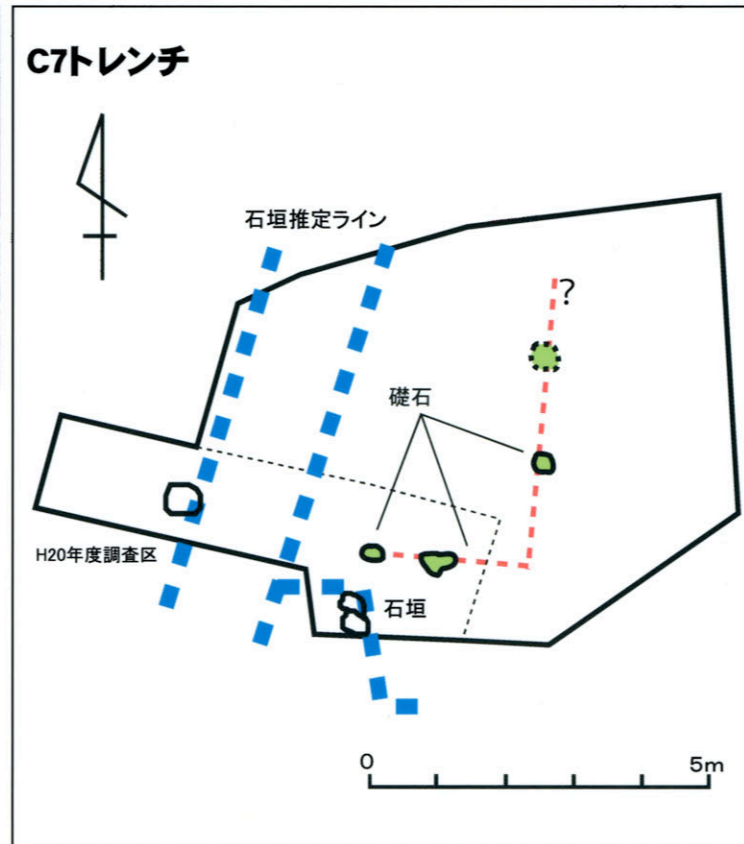
通路埋めたて土の堆積状況(北西から)



1次調査 通路北端検出状況(北から)



1次調査
通路(階段)と通路脇の
石垣検出状況



礎石検出状況(南から)



瓦出土状況



礎石と石垣(北から)

